

「全鍍連」 2024年 5月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 浅地 哲也（浅地メッキ工業(株) 代表取締役社長）

「能登半島地震と自然」

2024年の元日の夕方、能登半島を中心とした「能登半島地震」に石川、富山、新潟は激しい揺れに見舞われました。

業界関係者様のみならず被災に遭われた方々には改めてお見舞い申し上げます。

不謹慎さを禁じえず、誠に心苦しいタイトルで申し訳なく思うところでもありますが、この度の地殻変動により能登の広範囲の海岸線で数千年に一度という大規模な隆起が起こり海底であった場所が一瞬に陸地となり、現地の方はこの機に乗じてサザエなどの海産物を拾い集めたとの話も聞いており人のたくましさの片鱗も感じさせられました。

生物にとって環境の急変は壊滅的な打撃をもたらします。一瞬にして起こった隆起は自然によってもたらされた大変な試練であると思われます。

環境に対する多くの土木工事がそこに住む多くの生き物に対して壊滅的な被害をもたらす事と重なるかもしれません。

我々の生活、食料は未だ自然からの供給に依る部分が多くあります。めっき業界にも課せられる規制はそういった前提からであり、我々の業界が環境への負担を少なくする努力を払い、環境汚染を防ぐことは持続可能な社会を強く認識することでもあります。

能登半島地震は大変な被害、犠牲者を出すものでありましたが、一方でこの大地震や海岸の隆起自体が自然科学の注目を集めるものでもあります。前述の通り海岸の隆起により海岸に依存し住処、活動場所を一瞬で失った生き物の消長、海底に住処を持った生き物が隆起により観察が容易になったその生き物の観察など、まさに自然を記録する千載一遇のチャンスでもあります。しかしながら震災被害も癒えない中でこれらの研究、観察に能登へと足を運び活動するという事は物理的、自身の精神的に何ともハードルが高いのが事実です。

このような活動を行う人間は極僅かであり悪意もありません。復興の妨げにならない程度の活動にはご理解いただければと考えます。